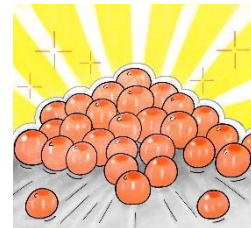


トレンドを斬る!

驚異の食品真空パックが注目を集めています。強度と伸縮性を合わせ持つ樹脂素材であるハイミランの真空パックは、豆腐や

イクラのような柔らかいものも、ウニのようにとがったものもとげの先まで、そのままの形で密封可能です。肉や魚の消費期限は従来の包装に比べて各段に延び、食品ロスの削減や流通に貢献しています。消費者はまとめ買いにより外出の頻度を減らせます。コロナ禍で制限が続く中、さまざまな技術革新が私たちの実生活の改善に役立っています。



365日が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

今月の商売のヒント:【粘り強くやり続け、やめるときは潔く】

昨年、初めてマラソン大会に挑戦した知人がいます。自慢の体力で初マラソンもなんとかなるだろうと高をくくっていたようですが、実際は行くも地獄、戻るも地獄。「もうやめたい」と「まだやれる」の間を行きつ



戻りつしながら何とか完走すると、想像以上の達成感で走っている最中の苦しみが一瞬と吹っ飛び、また走りたいという気持ちがむくむくと湧き上がったそうです。「あのとき途中でリタイアしていたら苦しみや辛さだけが残ってしまって、二度とマラソンをやろうとは思わないだろう」。彼の心境は商売にも通じる成功のヒケツともいえます。傍らから見ても大変な目に遭った人が笑って苦労話ができるのは、自分が満足するまでやったから。やり遂げたという満足感は、それまでの苦労や辛さに対しても「ありがとう!」と言えるほど力強いパワーになるという

ことです。経営の神様と呼ばれた松下幸之助も「成功とは成功するまでやり続けることで、失敗とは成功するまでやり続けられないことだ」と言っています。ただ、途中でやめるのがよくないわけではなく「大変だ」「苦

しい」「辛い」と感じている最中にやめてしまうと「次の一歩」も「気持ちの一歩」も止まってしまうのでしょうか。コロナで二極化が進むといわれる世の中で、元の世界に戻ることを期待している人と、これぞチャンスと新たなチャレンジに挑む人との二極化も明らかになっています。シドニーオリンピック・女子マラソンの金メダリスト高橋尚子さんは、結果が出ないときも「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く」の言葉を励みに練習を続けたというのは有名な話です。何が起きてもおかしくない正解のない時代だからこそ、



自分の感覚を信頼して、自分で創り上げるというアクションが大事になるのではないのでしょうか。まだできると思ううちは粘り強くやり続け、やめるときは潔く。とはいえ一人の戦いは寂しいものです。ぜひとも良い仲間を増やして、お互いに切磋琢磨を積み重ねていけるのが理想ですね。

トナリの

本棚



【言いかえ図鑑】

気遣ったつもりのひと言が逆に相手を不機嫌にさせてしまう。そのひと言をどう言いかえれば気持ちが伝わるのかを、例をあげて解説しています。カウンセラーとして活躍する大野萌子の、円滑な人間関係を構築する手助けとなる参考書です。

船越税理士事務所

〒620-0054

京都府福知山市末広町1-1-1 中川ビル3階

TEL:0773-22-3708 FAX:0773-22-7343

<http://www.f-office301.com>

E-mail: info@f-office301.com

皆様のご感想をお待ちしております◎◎◎◎◎◎